「きれいなまち」を実感
仁賀のガードレール清掃

仁賀協働のまちづくり協議会では、平成20年度から県道沿いのガードレール清掃に取り組んでいます。普段あまり目にとまらないガードレールの清掃を通して、まちの隅々まできれいにしようという、住民の美化意識が高まっています。

ガードレールの清掃という聞きなれない活動に取り組むのは、仁賀協働のまちづくり協議会まちづくり部会。

平成23年の仁賀ダム完成に向け道路整備が進む中、「道路を造るのは行政。できた道路を管理するのは地元のわたしたち」との思いから、道路沿いの草刈りやゴミ拾い、そしてガードレールの清掃活動を始めました。

普段気にかけないガードレールを掃除することについて、初めは地域の中でも戸惑いの声もありました。しかし、「仁賀をどこよりも美しい町にしたい」との熱意が協議会で認められ、地区（班）ごとに家の近くのガードレールが割り当てられました。年に一度は一斉清掃を行い、高齢者のみの地区などには他の地区から応援を呼び連携して行います。

「ほんとは大変なんですよ」と笑って話をしてくれたのは、一斉清掃にご夫婦で参加していた上仁賀地区の萩原正子さん。スポンジで根気よく汚れを洗い流す地道な作業の連続に、額に汗が流れます。「でも、きれいになると気持ちがいいですね。」

協議会会長の祐本征武（いくたけ）さんは、「まちがきれいになれば、ゴミも捨てられない。不法投棄もおのずとなくなるのでは。」と期待を寄せています。

参加者も次第に増え、家の周りの草刈りや花植えを始めた人も。

清掃活動は地道な作業の連続。それでも、きれいなまちに住んでいるという実感が、このまちの住民であることの誇りを育てています。

仕上げは高速洗浄で
スポンジでこすった後は、高速洗浄で一気に洗浄

こんなにきれいに！
コケなどでの汚れが水で洗い落とすだけで、真っ白に

メダリストから学ぶ水泳
第53回芸南学童水泳大会

8月1日、大乗小学校で芸南学童水泳大会が開催されました。

市内及び周辺市町の小学生が集まり、タイムを競い合うこの大会も、今年で53回目。会場では、懸命に泳ぐ児童に、応援に来た人たちから「がんばれ！がんばれ！」と大きな声援が送られていました。

今大会は、シドニーオリンピック銀メダリストの中村真衣さんによる水泳教室も開かれました。中村さんが見本を披露すると、音を立てないで美しく速く泳ぐ姿に児童は息を飲み、驚きの表情を見せていました。

中村さんによる直接指導も行われました。「しっかり下を向いて泳ぐ」「簡単にあきらめない」「しぶきをあげない静かな泳ぎが良い泳ぎ」など、様々なアドバイスに真剣に耳を傾けた児童は、短時間で泳ぐ姿勢が良くなるなど、上達が見られました。また、水泳教室ではメダルを触らせてもらうなど貴重な体験もありました。

大会新記録も出た今大会。近い将来、参加した児童の中から中村さんのようなスイマーが誕生するかもしれませんね。

伝統を伝える　忠海祇園祭

７月19日、忠海で祇園祭が開催され、多くの人で賑わいました。

御輿をかついで「ちょっさ」の声で練り歩く風景や、20歳になる若者の猿のぬいぐるみをつけたはっぴ姿に、地域の確かな伝承を感じました。

今年も「やっさ」で盛り上がる

８月１・２日、竹原住吉まつりが開催されました。１日の夜は、本川沿いで様々な催しがあり、多くの人が来場しました。会場は、やっさ踊りや櫂伝馬の元気なかけ声が響きわたり、盛り上がりました。

その火事まった！

８月４日、竹原消防署に住宅用火災警報器の取付義務化を呼びかける看板が設置されました。看板を作成したのは、竹原中学校の美術部。消防士に扮したかぐや姫と竹を描いた鮮やかな看板に、目を引き付けられます。

絵手紙を大切な人に送ろう

８月８日、たけはら美術館文化創造ホールで美術体験講座が開かれました。子どもから大人まで22人が参加し、絵手紙を描きました。手作りの絵手紙を送られた人は、きっと喜ばれるのではないでしょうか。

いきいき地域づくり賞　受賞

７月27日、広島県庁で広島県いきいき地域づくり賞の表彰式が行われ、NPO法人ネットワーク竹原が表彰されました。

いきいき地域づくり賞は、自主的な地域づくり活動を展開し、地域振興や地域活性化に功績があった団体に贈られるものです。

現在、ネットワーク竹原は正会員32人、賛助会員70人で組織されており、町並み保存地区内の空き家を修復・活用したり、竹原塩田の再生に取り組んだりするなど、精力的な活動をされています。

夜空を彩る大輪の花

８月29日、高崎町で恒例のたけはら夏まつり花火大会が開催されました。芸南地方の夏の終わりを飾るこの花火大会に、今年も多くの人が来場しました。

露店も並び、賑わう中、今年は3000発の花火が海上で打ち上げられ、瀬戸内海の夜空を美しく彩りました。

花火が一際高く打ち上げられ、大きな音とともに大輪を咲かせると、観客からは拍手が。ラストの連発する花火には、子どもたちも「うわー！」という驚きの声をあげていました。